

長瀬神明神社

山の麓にある長瀬神明神社は、神の領域と考えられている神聖な木立に囲まれており、神社の境内と俗世間を隔てている。こうした森は、日本の古代アニミズムにおいてしばしば崇拝の対象となっており、ここでもそうであったと考えられる。長瀬神明神社の樹木は神社よりもかなり古いと考えられており、トチノキ（*Aesculus turbinata*）や杉の巨木のほか、カエデ、イチョウ、ツバキなどがある。

長瀬神明神社は、神道で最も偉大な神である天照大神を祀っている。日本中にある他の神明神社と同様に、天照大神を祀る伊勢神宮の分社である。長瀬神社が現在のような形になったのは、江戸時代（1603-1867）末期の政治的・文化的激動の時代で、救いや人生の意味を求めたり、日常の苦難から逃れたりするために、伊勢をお参りすることが非常に盛んに行われた頃である。